

# 令和2(2020)年度事業報告

公益財団法人阿蘇グリーンストック

## 一、各事業報告

### 1 自然保全事業(公1)

#### 【草原保全活動】

##### (1) 野焼き・輪地切り支援活動

地元の高齢化、後継者不足により草原維持が困難となっている牧野への野焼き・輪地切り・輪地焼きの支援活動及び各種研修会に取り組みました。

同時に安全管理について、地元牧野組合にも協力していただき、現場での作業前の注意事項の伝達等、参加者へ周知徹底を行いました。

年間の支援牧野は66牧野で、延べ2,208名のボランティアの参加がありました。参加者については、延べ人数は昨年とほぼ同数ですが、実参加者の人数は増加傾向にあります。

野焼き再開については、南阿蘇村の2カ所(中松牧野(草千里)、吉田牧野)で行いました。

詳細は下記のとおりです。

##### ① 輪地切り・輪地焼き支援活動期間

- ・実施時期：2020年8月30日～2021年4月10日(3月予定が延期のため4月実施)
- ・実施場所：阿蘇地域市町村 90カ所 (46牧野)
- ・派遣人数：延べ1,192名

阿蘇市(舞谷、二塚 他合計21牧野)	延べ590名
南小国町(慈門坊、田の原 他合計6牧野)	延べ128名
高森町(上在、村山 他合計8牧野)	延べ246名
南阿蘇村(なわす、長野 他合計5牧野)	延べ131名
西原村(鳥子、出ノ口、宮山牧野)	延べ58名
山都町(柳谷、柳牧野)	延べ28名
産山村(竹の畑)	11名

##### ② 野焼き支援活動期間

- ・実施時期：2021年2月7日～5月6日(3月予定が延期のため4、5月実施)
- ・実施場所：阿蘇地域市町村 80カ所 (62牧野)
- ・派遣人数：延べ1,016名

阿蘇市(舞谷、二塚 他合計29牧野)	延べ443名
南小国町(慈門坊、田の原牧野 他合計11牧野)	延べ138名

高森町（上在、村山牧野 他合計 7 牧野）	延べ 188 名
南阿蘇村（下碓、長野牧野 他合計 6 牧野）	延べ 137 名
小国町（縦木、小藪）	延べ 28 名
西原村（鳥子、大切畑、宮山、日向）	延べ 44 名
産山村（竹の畑）	7 名
山都町（柳谷、柳）	31 名

## （２）研修会の開催等

野焼き・輪地切り支援活動の安全管理のための講習会、研修会等を開催しました。また、ボランティア会員の増員に向けて草原保全活動センターを活用し、コロナ禍の中で予防対策を施しながら研修会を開催してきました。会員登録は 2021 年 3 月末現在 1000 名を超えています。

### ① 野焼き支援ボランティアリーダー全体会の開催

第 1 回	(2020. 5. 15)	参加者 74 名 (書面)
第 2 回	(2020. 8. 29)	参加者 29 名
第 3 回	(2020. 12. 19)	参加者 34 名
第 4 回	(2021. 1. 30)	参加者 43 名

### ② 刈払機安全講習会の開催

第 1 回	(2020. 8. 22)	参加者 9 名	
第 2 回	(2020. 8. 30)	参加者 18 名	
第 3 回	(2020. 9. 5)	参加者 29 名	
第 4 回	(2020. 9. 12)	参加者 26 名	合計 82 名参加

### ③ リーダー養成研修会

第 1 回	(2020. 8. 21)	参加者 6 名	
第 2 回	(2020. 8. 23)	参加者 1 名	
第 3 回	(2021. 1. 23)	参加者 4 名	合計 11 名参加

### ④ 初心者研修会

第 1 回	(2021. 1. 31)	参加者 29 名	
第 2 回	(2021. 2. 6)	参加者 36 名	
第 3 回	(2021. 2. 9)	参加者 47 名	
第 4 回	(2021. 2. 13)	参加者 49 名	
第 5 回	(2021. 2. 20)	参加者 46 名	合計 207 名参加

### ⑤ 火引き研修会実施牧野 (7 年目 通算 35 牧野で実施)

笹倉牧野	(阿蘇市)
中萩の草牧野	(阿蘇市)
扇牧野	(南小国町)
下碓牧野	(南阿蘇村)
鳥子牧野	(西原村)



(3) シンポジウム、フォーラム

阿蘇草原再生千年委員会の企画として世界文化遺産登録に向けた応援・機運醸成を図るために、今回はコロナ禍により座談会形式で取材し西日本新聞に掲載、また、別途資料として配布しました。

- ・時期 3月27日土曜日
- ・掲載 西日本新聞紙上座談会
- ・出席者 蒲島郁夫 熊本県知事  
松尾新吾 九州経済連合会名誉会長  
石原 進 九州観光推進機構会長  
大久保昭彦 西日本新聞社 取締役経営企画局長  
高橋佳孝 阿蘇草原再生協議会会長  
坂本 正 阿蘇草原再生千年委員会委員長

※ 公1の収支決算は次の通りです。

科目	金額 (単位:円)	備考
活動会員受取会費	1,695,000	野焼き支援ボランティア会費
自然保全事業収益	21,555,200	草原保全システム(1793万)、キリン絆P(150万)、世界農業遺産推進協会(50万)、希少植物保全(64万)、研修(20万)季刊誌購読(17万)、斡旋品(42万)、協賛(19万)
ゆたつと村利用事業収益	136,800	ボランティア活動時の宿泊費
受取補助金等	8,349,747	阿蘇草原再生募金助成金(230万)大東建託みらい基金(70万)、多面的機能支払(535万)
受取寄付金	13,980,145	グリーンコープ草原ハンバーグ(62万)、熊本トヨタ(65万)、松合食品(60万)コカ・コーラいろはすプロジェクト(60万)、SYSKEN(30万)、日本ユネスコ協会連盟(10万)、GSC(6万)、阿蘇門前町商店街振興協会(10万)、九建運送(10万)田空(50万)、村山牧野(5万)個人(1028万)ジャパンエコトラック(2万)
雑収入	9,800	
収入合計	45,726,692	

人件費計	13,690,902	
物件費計	21,693,523	
支出合計	35,384,425	

(収入) 45,726,692円 - (支出) 35,384,425円 = 10,342,267円  
 基本財産へ 10,342,267 - 5,000,000 = 5,342,267円  
 (2021年度へ繰り越し)

## 2 自然体験・農業体験学習事業（公2）

### （1）農村体験型修学旅行受入事業（ファームステイ）

子どもたちが一般の農家に民泊し、阿蘇の農村での生活や様々な農業体験を通して農業・農村の大切さを学び、自然や人とのふれあいを大切にした体験企画などで、青少年の健全な育成を目指すことを目的に取り組んでいます。熊本地震後問い合わせ及び実施団体が少しずつ増えてきていたのですが、コロナ禍により今年度の宿泊体験は残念ながら実績0人でした。

阿蘇市、南小国町、南阿蘇村、西原村、高森町の約70軒の受け入れ家庭の方とコロナ感染対策について協議を重ね、引き続き農村民泊及び農業体験学習などの受け入れ準備を行ってきました。

### （2）環境教育及び農業体験事業

将来の阿蘇を担っていくことになる地元の子供たちをはじめ、都市の子供たち、また高校生、大学生、団体へ、草原トレッキングやクラフト体験などを含め様々な自然・農業体験プログラム等の企画を通じ環境教育について取り組みました。

また、情報館を窓口とした体験プログラムの提供、草原観察、草原データベース作成にも取り組んでいます。

●体験の受入れは以下の通りです。

	実施日		学校名	都道府県	実数	形態	備考
1	12月2日	水	長崎県立島原高等学校	長崎県	46	体験のみ	草原学習・スキのほうき作り体験
2	12月17日	木	長崎県立島原農業高等学校	長崎県	29	体験のみ	草原学習・草木染め体験
				(体験のみ)	75		

●地元小学生の草原環境・体験学習は以下の通りです。（12校、374名受講）

NO	地域	実施校	テーマ	学年	人数	実施日 予備日	備考
1	阿蘇市	阿蘇小	野焼きのあとを見よう	6年			中止
			草原の生きものについて学ぼう				
			あか牛について学ぼう	〃			中止
			草原の生きものについて学ぼう	〃	48	9/29(火)	
			草原のススキで野草紙を作ろう（ススキ刈り）	〃	48	12/23(水)	
			草原のススキで野草紙を作ろう（紙漉き）	〃	48	12/23(水)	
			阿蘇火山・草原のなりたち 草原観察	5年	〃	12/27(金)	
2	阿蘇西小	熊本市動植物園連携 草原と水のつながり	野焼きについて学ぼう(事前学習)	5年	〃	2/16(火)	
			野焼きについて学ぼう(野焼き体験)	5,6年	〃	2/25(木)	
			草原の生きものについて学ぼう	5年	17	10/12(月)	
3	一の宮小	草原が育んだ文化について学ぼう	あか牛と草原について学ぼう	4年	66	10/16(金)	
			野焼きについて学ぼう(事前学習)	〃	〃	1/16(土)	
			野焼きについて学ぼう(野焼き体験)	〃	〃	2/5(金)	

4		内牧小	草原について学ぼう	4年	46	8/5(水)	※教室で
			阿蘇のカルデラと草原のなりたちについて学ぼう	〃	〃	10/28(水)	R1 学習発表会参加校
			草泊まり作り(新宮牧野)	〃	〃	9/30(水)	
5	南小国町	りんどうヶ丘小	草原の夏の生きものについて学ぼう	4年	10	7/21(火)	R1 学習発表会参加校
			水の学習、秋の植物	〃	〃	10/2(金)	
			草原の植物を使ってもものづくり	〃	〃	10/23(金)	
6		市原小	草原について学ぼう	〃	12	9/18(金)	
7	産山村	産山学園義務教育学校	草原について学ぼう(事前学習)	4年	16	1月	産山学として学習
			草原の生きものについて学ぼう	4年	〃		コロナで中止。
			草原のススキで野草紙を作ろう(ハガキ)	4年	〃		コロナで中止。
8	高森町	高森中央小	草原でオオルリジミの学習	4年	49	6/18(木)	コロナで体験は中止。座学のみ
			野焼きについて学ぼう(事前学習)	〃			コロナ禍により中止
			野焼きについて学ぼう(野焼き体験)	〃			〃
9	高森東学園義務教育学校		草原でオオルリジミと自然観察	教諭	1	5/21(木)	コロナで中止。先生による体験実施。
			草原でオオルリジミの学習	4年	2	5/28(木)	担任による学習
			野焼きについて学ぼう(事前学習)	〃			コロナ禍により中止
			野焼きについて学ぼう(野焼き体験)	〃			〃
10	南阿蘇村	白水小	草原の生きものについて学ぼう(オオルリジミ)	3年	13	6/9(火)	コロナで体験は中止。座学のみ
11	南阿蘇村	両併小学	草原の生きものについて学ぼう(オオルリジミ)	3~6年	26	6/26(金)	コロナで体験は中止。座学のみ
		中松小	草原の生きものについて学ぼう(オオルリジミ)	3年		見送り	
12		南阿蘇西小	草原の生きものについて学ぼう(オオルリジミ)	3年	23	10/13(火)	
	西原村	山西小	草原の生きものについて学ぼう	3年		見送り	
		河原小	草原の生きものについて学ぼう	3年		見送り	

### (3) ゆたっと村での体験事業

修学旅行生、地元団体、一般の方などを対象に、ゆたっと村里山交流館の周辺の農地、山林等を利用した里山の暮らしの体験の提供については、コロナ禍により修学旅行などの団体利用、家族などの一般利用がありませんでした。

公2の収支決算は次の通りです。

科目	金額(単位:円)	備考
村民受取会費	174,000	村民会費
自然体験・農業体験学習事業収益	831,567	民泊・体験受け入れ(13万)、ヒゴタイ基金(70万)
ゆたっと村体験事業収益	150,000	阿蘇市公園管理委託費
雑収入	1,610,000	持続化給付金、土地賃貸料
収入合計	2,795,567	
人件費計	1,404,746	
物件費計	1,598,884	
支出合計	3,003,630	

(収入) 2,795,567円 - (支出) 3,003,630円 = △208,063円

### 3 調査・研究事業（公3）

草原散策ツアー企画の準備として草原学習のための映像制作及び草原ガイド養成のためのカリキュラムの作成に取り組みました。

昨年に続き、草資源の利活用の一つとして茅ぶき屋根材としての茅を利用するために、GS コーポレーションと連携して牧野の茅場及び供給先の調査を進めています。

阿蘇地域の草原保全の参考として、全国の草原調査を実施しました。

公3の収支決算は次の通りです。

科目	金額（単位：円）	備考
事業収入	6,595,000	阿蘇市フィールドミュージアム構想実践事業（149万）、世界農業遺産（50万）、阿蘇市環境共生基金（32万）、県（429万）
雑収入	30,000	茅関連講師料
収入合計	6,625,000	

人件費計	2,721,858	
物件費計	4,460,383	
支出合計	7,182,241	

（収入）6,625,000円 －（支出）7,182,241円 ＝ △557,241円

### 4 あか牛オーナーへのあか牛肉販売事業（収1）

阿蘇の草原を守るためには、阿蘇の草原を利用した畜産業の発展が最も有効な手段となります。独特な事業として阿蘇のあか牛の増頭又は維持に向けた畜産農家への支援のために県内外の方へオーナーへの参加を呼び掛けました。

#### ① あか牛オーナー制度について

2020年度新規契約オーナー数	4名（あか牛 5頭）
2020年度オーナー数	38名（あか牛 37頭）
合計	42名（あか牛 42頭）

受入牧野のエリアに関しては、阿蘇市6牧野、南小国町1牧野、南阿蘇村3牧野、高森町4牧野となっています。オーナー代表者会議を年2回開催し、交流会については年2回開催予定でしたがコロナ禍により中止となりました。

#### ② あか牛肉販売について

あか牛オーナー制度（オーナーより1頭につき30万円を預り金扱いとし、30万円を畜産農家へ繁殖牛購入資金として無利子で貸し出す）では、年間6万円を目途にオーナーの申込みに応じてあか牛肉を5年に亘ってお届けするものです。近年はあか牛肉の需要増により阿蘇産の商品が手に入りにくい様子にあります。

収 1 の収支決算は次の通りです。

科目	金額 (単位:円)	備考
活動会員受取会費	94,000	オーナー・農家より
事業収益	2,520,120	あか牛肉他の利用
雑収入	109,350	運送費、保冷箱、保冷剤代オーナー負担
収入合計	2,723,470	

人件費計	272,620	
物件費計	2,445,465	
支出合計	2,718,085	

(収入) 2,723,470 円 - (支出) 2,718,085 円 = 5,385 円

## 5 食事提供及び農産物の販売等事業 (収 2)

一般の団体や個人のゆたっと村の宿泊利用、あか牛肉の利用普及のためのバーベキューの提供、また、農産物の販売などを行いました。コロナ禍により昨年より利用人数、利用高共に減少しましたが、農産物の売上は少し増えています。

① 宿泊での利用は以下の通りです。

・ 宿泊利用 24 名 (昨年 129 名、105 名減)

② 農産物の収穫・販売をしました。(昨年 10 万円の売上、8 万円増)

・ 椎茸 ・ 落花生 ・ 栗 ・ ブルーベリー ・ さつまいも ・ 梅 ・ ゆづ

収 2 の収支決算は次の通りです。

科目	金額 (単位:円)	備考
事業収益	291,601	宿泊・体験 (7 万)、BBQ (4 万)、農産品 (18 万)
雑収入	509,640	九電賃料、持続化給付金 (50 万)
収入合計	801,241	

人件費計	226,918	
物件費計	525,322	
支出合計	752,240	

(収入) 801,241 円 - (支出) 752,240 円 = 49,001 円

## 6 受託調査事業 (収 3)

阿蘇草原再生野草地環境保全計画調査事業 (環境省、通称「牧野カルテ」) について、阿蘇草原再生協議会会員で国立公園内の牧野組合を対象とした環境省による調査事業で、草原文化 (草原の活用、地名、希少動植物等の調査) 及び草原再生 (野焼き作業軽減の為の防火帯整備等の調査) の調査に取り組みました。

今回の調査対象牧野は、中荻の草牧野 (阿蘇市)、前原牧野 (高森町)、竹の畑牧野 (産



山村) の3牧野で実施しました。平成17年より通算で52牧野の調査を実施しています。

収3の収支決算は次の通りです。

科目	金額(単位:円)	備考
事業収益	9,790,000	環境省入札
収入合計	9,790,000	

人件費計	3,472,053	
物件費計	5,748,870	
支出合計	9,220,923	

(収入) 9,790,000円 - (支出) 9,220,923円 = 569,077円

## 7 受託管理事業(収4)

### (1) 事業の内容

環境省の「草原学習館」及び阿蘇市の「草原情報館」の2つの施設管理を受託し、それぞれ下記のような施設概要で、連携して管理運営にあたりました。主には財団で施設、警備、清掃、日常管理、総合窓口、来客者対応、案内、展示物管理、情報提供ホームページ管理等を行ってきました。新型コロナウイルス感染対策として管内の利用人数制限がありました。情報館ではワーケーションの場として利用がなっています。

- ・ 草原学習館来館者・利用者数 4,897名(昨年9,020名 4,123名減)
- ・ 草原情報館来館者・利用者数 5,237名(昨年7,327名 2,090名減)

### (2) 施設の概要

#### ①環境省「草原学習館」

- ・ 規模：建築面積806.28㎡、延床面積：684.37㎡
- ・ 構造：木造平屋建て
- ・ 機能：レクチャールーム、展示、屋外作業スペース、事務室、トイレ、倉庫
- ・ 駐車場：普通車33台、身障者用1台、大型バス2台

#### ②阿蘇市「草原情報館」

- ・ 規模：建築面積729.48㎡、延床面積：648.07㎡、広場：1,200㎡
- ・ 構造：木造一部鉄骨造平屋建て
- ・ 機能：ワークスペース、事務室、オフィス、トイレ、倉庫、駐輪場
- ・ 駐車場：普通車71台、身障者用2台、大型バス2台

収4の収支決算は次の通りです。

科目	金額(単位:円)	備考
受託管理事業収入	8,827,500	草原学習館(731万)、草原情報館(151)万
収入合計	8,827,500	

人件費計	4,943,315	
物件費計	3,225,889	
支出合計	8,169,204	

(収入) 8,827,500 円 - (支出) 8,169,204 円 = 658,296 円

## 7 法人会計

月次決算等、会計処理については公認会計士に委託して運営しました。

法人会計の収支決算は次の通りです。

科目	金額 (単位: 円)	備考
基本財産運用益	400,000	
維持賛助会費	2,797,000	個人会員 72 名 (26 万円) 団体会員 51 企業団体 (254 万円)
雑収入	473,123	講師報酬、費用弁償他
収入合計	3,670,123	

人件費計	796,133	
物件費計	2,402,477	
支出合計	3,198,610	

(収入) 3,670,123 円 - (支出) 3,198,610 円 = 471,513 円

## 二. 2020 年度収支決算について

(1) 上記のとおり事業全体としての経常利益は

(収入) 80,959,593 円 - (支出) 69,629,358 円 = 11,330,235 円

となります。2012 年に野焼き死亡事故の見舞金として基本財産を 500 万取り崩したこともあり、財団の存続のためにも、うち 5,000,000 円は基本財産へ繰り入れすることで予定しています。

(2) 公益事業比率は、45,570,296 円 ÷ 69,629,358 円 = 65.45%

となります。

<別紙決算報告書参照>